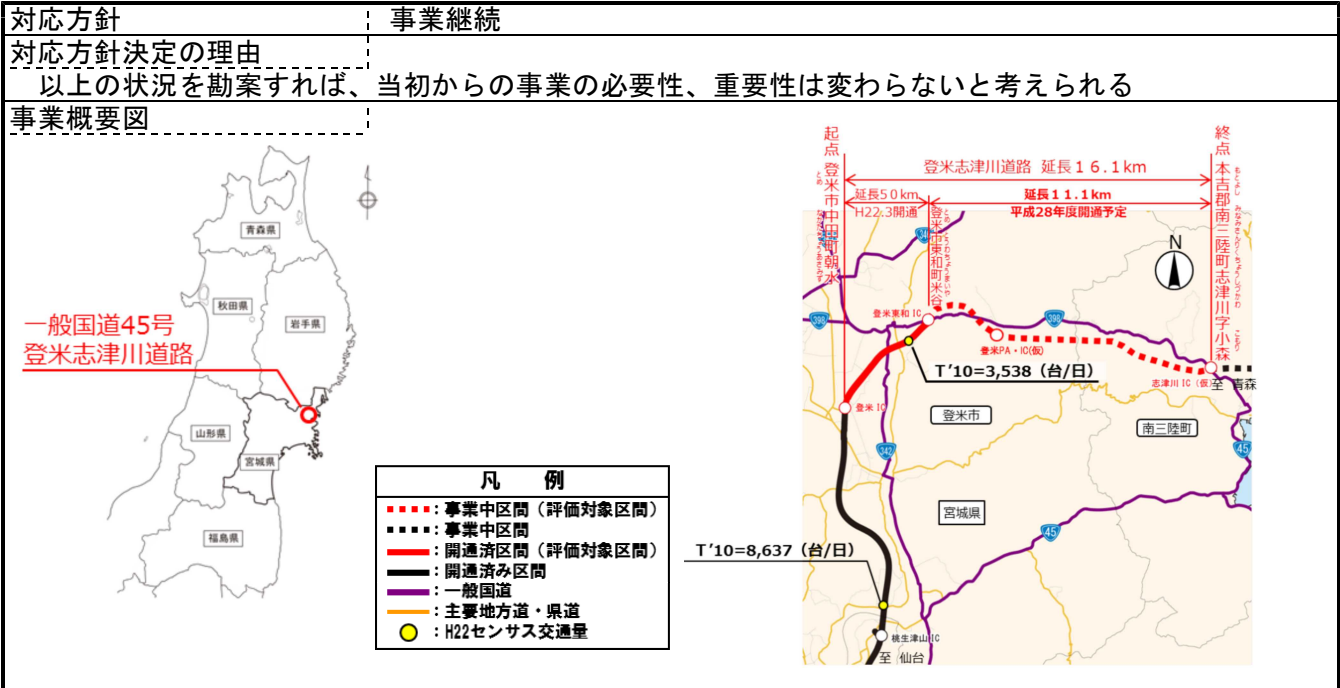


再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：川崎 茂信

事業名 一般国道45号(三陸沿岸道路)登米志津川道路 <small>さんりく とよましづがわ</small>	事業区分	事業 国土交通省 主体 東北地方整備局
起終点 自：宮城県登米市中田町浅水 <small>とめ なかだちょうあさみず</small> 至：宮城県本吉郡南三陸町志津川字小森 <small>もとよし みなみさんりくちようしづがわ こもり</small>		延長 16.1km
事業概要 一般国道45号(三陸沿岸道路 登米IC～釜石JCT)は、宮城県登米市から岩手県釜石市に至る約110kmの復興道路である。 登米志津川道路は、三陸沿岸道路の一部を形成し、宮城県登米市中田町浅水から宮城県本吉郡南三陸町志津川字小森に至る延長16.1km、2車線の自動車専用道路である。		
H6年度事業化	H-年度都市計画決定 (H-年度変更)	H15年度用地着手
H16年度工事着手		
全体事業費 : 約401億円		事業進捗率 : 97%
		供用済延長 : 5.0km
計画交通量 : 11,500台/日 [登米～釜石]		
費用対効果分析結果 [登米～釜石]	B/C : (事業全体) 1.4 (2.5) (残事業) 2.0 (4.8)	総費用 : (残事業)/(事業全体) 1,428億円 / 3,558億円 (事業費 : 1,219億円 / 3,271億円) (維持管理費 : 209億円 / 288億円)
		総便益 : (残事業)/(事業全体) 2,915億円 / 5,064億円 (走行時間短縮便益 : 2,263億円 / 4,157億円) (走行経費減少便益 : 522億円 / 700億円) (交通事故減少便益 : 130億円 / 206億円)
基準年 : 平成27年		
感度分析の結果 [登米～釜石] 【全体事業】 交通量変動 : B/C=1.3～1.6(交通量 ±10%) 事業費変動 : B/C=1.3～1.6(事業費 ±10%) 事業期間変動 : B/C=1.3～1.5(事業期間 ±20%)		
【残事業】 B/C=1.7～2.5(交通量 ±10%) B/C=1.9～2.2(事業費 ±10%) B/C=2.0～2.1(事業期間 ±20%)		
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・南三陸町志津川から国管理空港である仙台空港へのアクセス性が向上(現況：102分→整備後：92分) ②安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス性が向上(南三陸町～石巻赤十字病院 現況：49分→整備後：39分) ③災害への備え ・宮城県緊急輸送道路ネットワーク計画において、国道45号が「第一次緊急輸送道路」に指定 ・国道45号(第一次緊急輸送道路)の代替路となる ④災害時にも避難路や緊急輸送道路として機能する信頼性の高い高速ネットワークの形成		
関係する地方公共団体等の意見 ○宮城県知事の意見 「対応方針(原案)」案のとおり継続で異議ありません。 ○以下の団体等から、三陸沿岸道路の整備促進について要望あり ・気仙沼・南三陸地方三陸沿岸道路整備促進協議会 ・気仙沼・本吉地方リアスハイウェイ女性の集い委員会		
事業評価監視委員会の意見 対応方針(原案)どおり「継続」が妥当である		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない		
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成6年度事業化、用地進捗率100%、事業進捗率97%(平成27年3月末時点) ・平成21年度：登米IC～登米東和IC間 延長5.0km(2/2) 開通		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・事業の進捗に係る問題はない ・平成28年度：全線2車線開通予定		
施設の構造や工法の変更等 ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する		



※ 費用対効果分析結果における () は、事業化区間のうち IC間の費用対効果分析の結果を示す。
 ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。